

序文

わが国も今や高齢社会となり、高齢者への健康保持、疾病による医療や介護について真剣に対応しなければならないようになっていっています。高齢入院患者の施設での現況をみると、寝たきりで、栄養状態も良くなく、経腸栄養で生き永らえている高齢患者さんも少なくありません。健康に近く、痴呆も軽度にとどまり、経口摂食ができ、生活の質（QOL）も良い長寿者はいまだ少なく、今後この健康寿命を延ばしたいものです。死亡される高齢患者は栄養不足と多臓器不全を伴いがちで、肺炎などの感染症に対して抵抗力が弱いわけです。そこで、高齢者の栄養状態を良くして抵抗力をつけ、健康寿命が延びるようにしてもらいたいと思っています。本書はそれらの点から、高齢患者の医療、介護において薬剤治療のみならず、栄養状態を維持・改善することを重視致しました。医療は医師を始めとして看護師、管理栄養士・栄養士、リハビリテーション従事者などの、関係するメンバーからなるチーム医療であり、この点も明確にすべきです。これまでの経験的な医療から、エビデンス（根拠）に基づいた科学的な医療（EBN）が望ましく、このEBNの概念はここ1年でめざましく普及して参りました。

本書は高齢者の医療と介護の全般にわたる領域を網羅し、その範囲は医学、看護学、栄養学とリハビリテーション学にわたっています。そこで医師を始め、看護師、管理栄養士、リハビリテーション従事者の先生方に、それぞれの専門領域のことを執筆して頂きました。その際、各疾患の薬剤治療と共に患者の栄養状態の維持・改善を記述して頂き、内容もエビデンスに基づくようお願い致しました。高齢者医療ではエビデンスが乏しく、そこでエビデンスに準ずるものとしてガイドラインを使って頂いている場合もありますが、より確かな記述を筆者にお願い致しました。

そこで読者の方々にとって大いにご参考になるものが多くあると確信しています。本書により高齢医療の全体像を把握して頂き、日常の高齢者の健康問題や疾病対策に活用して頂くことが、本書に携わった全員の願いでもあります。

本書の編集にご協力くださった第一出版の石川秀次社長，編集部の小ノ澤睦美氏，阿部由香氏，柳田律子氏を始めとして，惜しみなくご協力して下さった多くの関係各位に深甚の謝意を表するものです。

2003年8月吉日

編集代表 齊藤 昇